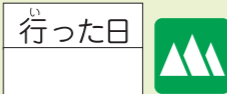


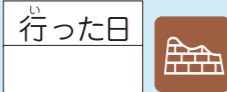
いしかわていぼう さくら
市川堤防の桜

昭和59年(1984)に姫路中央ライオンズクラブが設立20周年を記念して市川の堤防道路の東側にソメイヨシノの桜の木を100本植えました。平成6年(1994)に西側にもおよそ80本のソメイヨシノを植えました。今ではどちらもたいへん大きな木に育って地域の名所になっています。



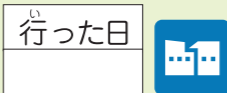
いしかわ わた
市川の渡し

江戸時代には、市川には橋がなく、大名や一般の人たちは渡し舟を利用しました。渡し舟の乗り場には姫路藩の御伝馬船という船が1艘、乗組員が12人いました。水が少なくなる時期には、乗り場の近くに板の橋を架けて渡ることができました。明治8年(1875)に橋ができてから「渡し」は続きました。



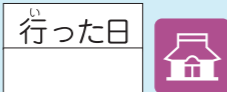
いしかわばし
市川橋

明治8年(1875)に初めて市川橋が完成しましたが、幅がせまく、欄干もとても小さいものでした。当時は、兵庫県で一番長い(490m)橋でしたが、明治22年(1889)の洪水で橋の一部が流されてしまいました。明治41年(1908)に鉄橋ができ、昭和16年(1941)に今の橋が完成するまで使われました。



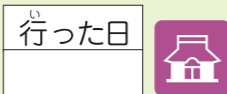
いちのこう やくしどう いちのこうはいじとうしんせ
市之郷の薬師堂(市之郷廃寺塔心礎)

「播磨鑑」という本に「下市之郷村の薬師は、今ここを築地の内」と書かれています。このあたりは白鳳期に建てられたお寺の跡で、昭和25年(1950)ごろまでは布目瓦が発見されていました。お寺の塔の基礎となる石は、昭和33年(1958)に山陽電車が電化される時に今の薬師堂に移されました。



くしよ ごりょうてんじんしゃ かみやてんじん
九所御霊天神社(神屋天神)

天正年間(1573~92)に五つの神さまをおまつりしていましたが、近世になって少彦名命をはじめ、大物主命や菅原道真など九つの神さまをおまつりしたことから、くしよごりょうてんじんといわれています。玉垣には江戸時代の木綿商人や明治時代の企業の名前が残っています。一般的に「神屋天神」といわれています。



しら
調べたこと、
わ
分かったことを
か
書いてみよう!



- 遺跡・史跡、歴史上の名所
- 神社・仏閣、歴史的建造物
- 歴史上の人物など
- 祭り
- 美術品
- 伝統芸能など
- 景勝
- 生物・花
- 町並み
- etc その他



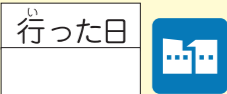
ひがしちく
2 東地区

市川にまだ橋がかかっていなかった江戸時代には、人々はどのように川を渡っていたのでしょうか。西国街道とよばれ、関西と九州を結んでいた昔の道はどこを通っていたのが調べてみましょう。



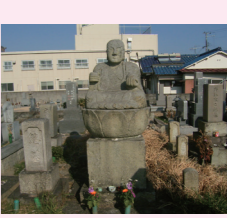
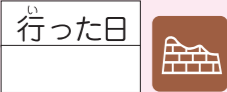
さいこくかいどう きゅうさんようどう
西国街道(旧山陽道)

市川の渡しから姫路城へ入っていく外京口門へと続く道が西国街道(旧山陽道)です。今でも、昔を思わせる細く曲がった道が続いています。今では、神和町のところで昔の街道が途切れていますが、ここでは昔の町並みの雰囲気はまだ少し残っています。



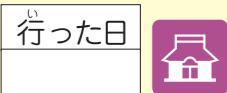
だいにちほち ろくじぞう せきぶつ
大日墓地の六地藏と石仏

大日墓地には、六地藏と石仏(享保十七年七月吉日と彫られています)があります。ここを通る人たちの安全を願う道祖神という守り神の役割をはたしていたと思われまます。



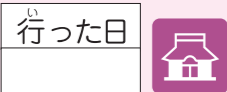
ほうしゃくじ
宝積寺

黄檗宗のお寺で、地藏菩薩がまつられています。俳句で有名な松尾芭蕉の弟子の推然坊がくび、芭蕉像を持って各地をめぐる歩いてきたところ、仲間がその芭蕉像の全体を完成させました。明治時代にその像を宝積寺の住職が預って、観音堂を建てておまつりました。



ほうぞういん
寶蔵院

慶長年間(1596~1615)に再建された真言宗のお寺だと伝えられています。本堂の棟瓦には、深志野の瓦職人が嘉永3年(1850)につくたと書かれていて、この時期に建て直が行われたと思われます。戦前は、毎年7月に「祇園さん」という夏祭りが行われていたようです。



みょうせんじ
明泉寺

慶長年間(1596~1615)に尼寺として今の古二階町に建てられました。明治4年(1871)に郵便局を建てるため、今の場所に移されました。当時は、赤珊瑚や白珊瑚で菊や虎の絵が描かれた豪華な襖や屏風がありましたが、昭和20年(1945)の空襲で一部をのぞいて焼けて無くなりました。昭和26年(1951)に本堂が建て直されました。

